

基本方針 2 公私の切磋琢磨により高校の教育力を向上させます (3) 特色・魅力ある私立高校づくりを支援します

【基本的方向】

- ① 家庭の経済的事情にかかわらず、自らの希望や能力に応じて自由に学校選択できる機会を提供するため、私立高校生等に対する授業料無償化制度を実施します。あわせて、効果検証を行い、今後の制度検討を行います。
- ② 私立高校が、それぞれの建学の精神に基づき、社会の変化や府民の教育ニーズに対応した特色・魅力ある教育を行えるよう、私学教育の振興を図るとともに、公私がより共通の土俵で競い合える環境づくりに努めます。

【主な取組み】

基本的方向	具体的取組名 (事業名)	実施内容
①	私立高校生等に対する授業料等の支援 (私立高等学校等生徒授業料支援補助金) <参考資料 P 178> (私立高校生等奨学給付金事業) <参考資料 P 178>	授業料無償化制度を実施した。 平成 26 年度以降入学生を対象に、市町村民税所得割額が非課税である世帯に対して、授業料以外の教育費の負担軽減を目的として、奨学のための給付金を支給した。
②	優れた取組みを実践する学校に対する支援 (学校経営推進事業)  <参考資料 P 178>	優れた取組みを実践する学校に対する支援として、大阪の教育課題として府が指定する項目に対し、PDCA サイクルによる高い効果が見込まれる事業計画を提案する私立高校 1 校に支援した。
	生徒・保護者の学校選択肢の一層の充実 <参考資料 P 178>	全日制高等学校を 1 校設置認可するとともに、既設の全日制高等学校に新たな専門学科 1 学科の設置を認可した。

【指標の点検結果】

指標	目標値 (H29 年度)	H24 年度実績値 (計画策定時)	H28 年度実績値	点検結果	
○指標 16 私立高校に対する生徒・保護者の満足度	向上させる	72.7%	73.1% [H27 年度実績 78.8%]	○	平成 28 年度実績は、計画策定時の実績を 0.4 ポイント上回った。
○指標 17 私立高校の教員が信頼できると答えた生徒の割合	向上させる	67.0%	68.7% [H27 年度実績 71.7%]	○	平成 28 年度実績は、計画策定時の実績を 1.7 ポイント上回った。
○指標 18 私立高校全日制課程の生徒の中退率	全国水準をめざす	1.5% (全国：1.5%)	H27 年度実績 1.1% (全国：1.2%) 〔H26 年度実績 1.3% (全国：1.3%)〕 ※H28 年度実績は H29 年度秋以降に公表予定	◎ (注)	平成 27 年度実績は、計画策定時の実績より 0.4 ポイント改善し、全国水準を下回った。
○指標 19 私立高校卒業生(全日制)の大学進学率	向上させる	71.9%	H27 年度実績 72.1% [H26 年度実績 72.1%] ※H28 年度実績は H29 年度秋以降に公表予定	○ (注)	平成 27 年度実績は、計画策定時の実績を 0.2 ポイント上回った。
○指標 20 私立高校卒業生の就職率 (就職者の就職希望者に対する割合)	全国水準をめざす	92.1% (全国：93.9%)	92.4% (全国：97.7%) 〔H27 年度実績 93.6% (全国：97.5%)〕	△	平成 28 年度実績は、計画策定時の実績を 0.3 ポイント上回ったが、昨年度実績を 1.2 ポイント下回り、全国平均との差は 1.8 ポイントから 5.3 ポイントに拡大した。

(注) 目標に対する平成 27 年度実績の進捗状況を記載。

【自己評価】

- ① 家庭の経済的事情にかかわらず、自らの希望や能力に応じて自由に学校選択できる機会を提供するため、私立高校生等に対する授業料無償化制度を実施します。あわせて、効果検証を行い、今後の制度検討を行います。
- 私立高校生等の授業料無償化の実施により、制度創設前と比べ私立高校に進学する割合が増加するなど、無償化制度は、経済的理由を問わない自由な学校選択に寄与している。また、制度の検証のため、公私の流動化の状況の分析に努めるとともに、私立高校の保護者に対し、学校選択に関する満足度調査を実施した。私立高校への満足度を示す指標については平成 27 年度に比べ低下したものの、7割を超える生徒・保護者が学校生活に満足している。このような結果を踏まえ、平成 31 年度以降の制度見直しに向けて検討をするなど、満足度が維持・向上するよう努めていく。
 - 平成 28 年度以降の新生入生に対する授業料支援については、きめ細かく対応するという考え方のもと、私立高校生及び大学生が3人以上の多子世帯に配慮した支援制度の創設、また、制度の継続的な実施という観点から、生徒が2人以下の世帯の保護者負担の見直し等を行い、平成 28 年度から平成 30 年度までの入学生に対する授業料無償化制度の内容を決定した。
- ② 私立高校が、それぞれの建学の精神に基づき、社会の変化や府民の教育ニーズに対応した特色・魅力ある教育を行えるよう、私学教育の振興を図るとともに、公私がより共通の土俵で競い合える環境づくりに努めます。
- 私立高校の振興を図るために、経常費補助金を交付するとともに、優れた取組みを実践する私立高校 1 校を支援した。なお、当該支援校は英語教育の充実を図った結果、英検 2 級の合格者が 22%増加した。
 - 中退率については、授業料支援やカウンセラー配置に対する補助金の交付等の取組みの結果、目標としていた全国水準を下回った。引き続き、カウンセラー配置に対する補助金交付等、中退防止に資する取組みを行っていく。
 - 私立高校卒業者の就職率については、平成 27 年度実績を 1.2 ポイント下回った。引き続き、キャリア教育の充実に向けた支援を通じて改善するよう努めていく。

【評価審議会における審議結果】

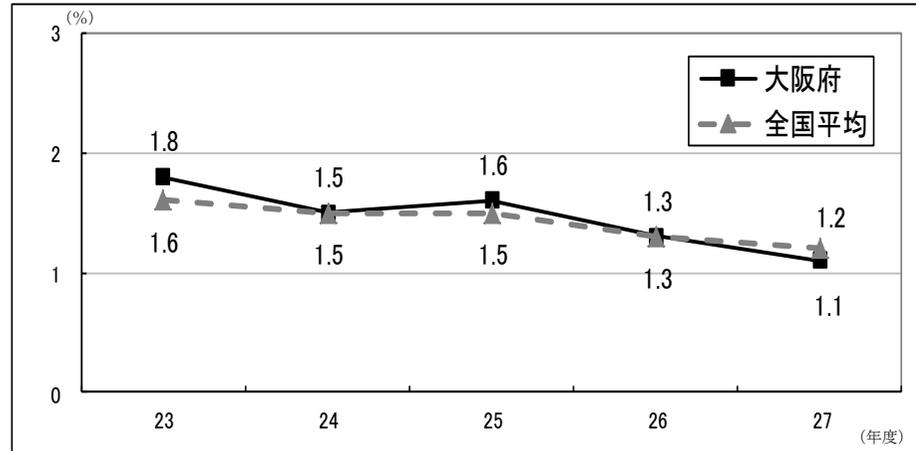
○府の点検及び評価結果は、概ね妥当である。

【基本的方向①について】

- 「私立高校全日制課程の生徒の中退率（指標18）」は減少に向かっている成果が見られ、奨学金制度が寄与するところと私学の努力があると思う。一方、「私立高校に対する生徒・保護者の満足度（指標16）」が低く伸び悩んでいる要因は、ハード面にあるのか、ソフト面にあるのか、今後の改善に向けて分析が必要である。後期計画を見据えては、授業改善について、中高接続、高大接続の視点から、「主体的、対話的で深い学び」の実践について、ますます高校での授業の質が問われてくることになるので、ソフトのこうした面で、学校の努力がどう生徒の満足度を高めたかということを示すべき。

(参考)

◆指標18 私立高校全日制課程の生徒の中退率



※府教育庁調べ